

主 題：霊的な女性**聖書箇所：1 テモテ 3：11, 1 ペテロ 3：1-6, 箴言 31：26-29**

聖書の中には霊的な女性が大勢あげられています。サラ、ルツ、ナオミ、ハンナ、エステル、エリザベツ、マリヤ、マルタ、ルデヤ、アクラ、ユニケ、…。この女性たちは皆、神を恐れる人でした。クリスチャンにはその信仰の歩みにおいて、成長したいという思いが与えられます。神に喜ばれることを考え、選択して行こうとします。神はそのような人を用いられます。私たちは神に用いられる信仰者となることを目標にするはずです。

今日は母の日を覚えて、霊的な女性、主を恐れ愛する人とはどういう人か、神が望んでおられることがどんなことかを見てゆきましょう。

1 テモテ 3：11 を見ましょう。婦人執事とは教会の中でリーダーとして仕える人です。霊的に成長している人はリーダーとして神は用いてくださるのです。

霊的な人の四つの特徴をみてゆきましょう。

1. 尊敬を受ける人

「威厳があり」、8 節には「謹厳」とあります。これはその行為だけでなく性格においても人々から尊敬を受けるにふさわしい人です。この世の基準ではありません。世は目に見えること、地位や名誉を尊びますが、神が求められるのは内側の美しさです。神に忠実に歩むならそのように変えられてゆきます。失敗があったとしても、それに正しく対処することです。

2. 聖潔な人

クリスチャンはだれでも罪を憎みますが、ここでは特にことばによる罪を強調しています。「悪口をいわず」、8 節は「二枚舌を使わず」ですが、この「悪口」とは、中傷、誹謗する、口が悪いという意味です。旧約のレビ記 19：16 には「人々の間を歩き回って、人を中傷してはならない」とありますが、この「中傷」とは「告げ口屋、人の噂話をふりまく」という意味があります。

なぜ、このようにことばによる罪が強調されるのでしょうか。それは、他の罪、盗みや不品行といった外側に現われるものではないから、分かりにくいからです。人に認識されにくいからです。エペソ 4：29 には「悪いことばを、いっさい口から出してはいけません」とあります。ここから教えられることは、(1) 人の心が罪に染まっているからそれがことばとなるのです。マルコ 7：21-23 には、内側から、人の心から出て来るものが列挙されています。悪い考え、…そしり、人のことを悪く言うことです。そのような思いが心の中にあるなら、それがことばとなって外に現われるのです。自分のそのような思いに対して、それを止めようと決心することが求められます。(2) そのようなことばの罪を犯す人を私たちは赦すことです。神が私を赦してくださったように。(3) 心の罪を神の前に告白することです。詩篇 44：21 に「神は心の秘密を知っておられるからです。」とあるとおりです。

また、悪口、中傷はサタンの策略です。この 1 テモテ 3：11 の「悪口」ということばはある人物を指すことばとして使われています。マタイ 4：1「イエスは、悪魔の試みを受けるため、…」、5 節「すると、悪魔はイエスを聖なる都に連れて行き、」この「悪魔」と同じことばなのです。使徒の働き 10：10「…あらゆる偽りとよこしまに満ちた者、悪魔の子、…」、1 ヨハネ 3：8「罪のうちを歩む者は、悪魔から出た者です。」、ヨハネ 8：44「…悪魔は初めから人殺しであり、真理に立つてはいません。」とこのように言われている悪魔と同じだということです。私たちが悪口を言い始めるといろいろな争いが生じます。箴言 26：20 には「たきぎがなければ火が消えるように、陰口をたたく者がなければ争いはやむ。」とあります。悪口を言うことはサタンの道具となってしまっているのです。1 テモテ 3 章では、男性には二枚舌(8 節)、女性には悪口(11 節)と書かれていますが、女性はいっしょに集まることが多いからでしょう。心がいつも主に対してきよくあることを言われているのです。

3. 冷静な人

11 節「自分を制し」とあるとおりです。8 節には「大酒飲みでなく」とありますが、これは自分をコントロールできないからです。物事を正しく判断できるようにと言われます。霊的に幼い人は感情の浮き沈みが激しいのです。

4. 忠実な人

教会だけでなくどこにあっても、与えられた務めに忠実であることです。その人は人生の大切さを知っ

ています。今日が最後の日だという思いで、今日ベストを尽くすのです。

⇒このようなことを目標にして歩んでいる人が霊的だと教えられています。

1 テモテ 3 : 13 には、霊的な人への神の祝福が書かれています。

1. 霊的に成長します。

「良い地歩を占め、」、この「占め」とは“得る”とか“達成する”、「良い地歩」とは、“階段、階級”という意味です。階段を上がるように成長してゆくというのです。人々から尊敬を受け、認められるのです。その人は問題にぶつかったとしても、主の導き、助けがあるという確信があります。そして、日々それを体験しているのです。

2. すばらしい証し人とされます。

a) 夫に対して、(1) その行ない : 1 ペテロ 3 : 1-6 に書かれているとおりです。「妻たちよ。自分の夫に服従しなさい。…」と。これらの行いによって神は証しをさせてくださるのです。従順、服従とは、奴隷が主人に服従するというのではなく、自ら従う者になろうという選択を教えています。なぜなら、その人は神を畏れているからです。「無言のふるまいによって」、ことばより行ないに力があるのです。しかし、覚えることは、夫以上に神に従うことです。もし、信仰上で妥協できないことがあれば、神に従うことです。

(2) 人がら : 4 節に「柔和で穏やかな霊」とありますが、「柔和」とは自分の権利を主張しないこと、「穏やか」とはどんな時も冷静に対処できるということです。そして 5 節には、信仰的な女性について、彼女たちは神に望みを置いた敬虔な女性だと書かれています。夫を支え、サポートし、励ましてゆくのです。何よりも大切なことは、神のみことばに従って正しく生きてゆくことです。

b) 夫だけでなく子どもにも、よき証し人としてくださるのです。箴言 31 : 26-29 「彼女は口を開いて知恵深く語り、その舌には恵みのおしえがある。彼女は家族の様子をよく見張り、怠惰のパンを食べない。その子たちは立ち上がって、彼女を幸いな者と言い、夫も彼女をほめたたえて言う。「しっかりしたことをする女は多いけれど、あなたはそのすべてにまさっている。」と。」。知恵深く語るとは、必要なときに必要なことばを、ということです。親切で適切なことばです。ことばにおいて知恵があるのです。それはみことばに心満たされているからです。みことばが蓄えられているからです。また、神を愛するから家族のために尽くすのです。家族に祝福をもたらします。そのカギは 30 節「主を恐れる」です。

⇒神に役立つ女性に、神の栄光を現わす女性に、と教えられます。このような女性を神は用いてくださるのです。